



国内初の感染確認

新型インフル 大阪の高校生ら3人

カナダ帰り 同行者ら49人待機 成田で検査

厚生労働省は九日、成田空港で国内初の新型インフルエンザ感染者が確認されたと発表した。大阪府在住の男子高校生二人と四十代の男性教諭の

計三人で、四月末からカナダのオークビルに短期留学で滞在し、八日に米デトロイトから成田に到着した。

三人は到着後の機内検査で感染の疑いが判明、感染症指定医療機関の成田赤十字病院（千葉県成田市）に搬送、隔離された。国立感染症研究所の検査の結果、新型ウィルスに陽性反応を示し、感染が確定した。入国前の検査の段階ながら、日本で感染者が確認されたのは初めて。

麻生太郎首相は「検査の段階で対処したもので、国内で発生した場合に当たらない」としているが、新型インフルエンザが日本でも広がる事態が迫っていることが浮き彫りになった形だ。

外添要一厚労相は九日午前八時半から、厚労省で記者会見した。

厚労省によると、男子

高校生ら三人は、八日午後四時半ごろ、デトロイト発のノースウエスト航空25便で成田空港に到着。発熱やせきなどの症状があるという。簡易検査でA型インフルエンザの陽性反応が出たため、空港検疫所で詳細（PCR）検査を、感染研で確定検査をそれぞれ行った。

八日時点で、男性教諭の体温は三八・六度。高校生はそれぞれ三六・六度と三七・一度だった。

短期留学には、感染が確認された高校生や教諭を含め計三十六人が参加していた。同機には乗客乗員計四百十人が搭乗。うち同行の高校関係者を

含む四十九人が待機している。

この四十九人については感染の有無を確認するため、厚労省は検疫法に基づき空港周辺の宿泊施設に十日間にわたって滞在させる。それ以外の搭乗者についても、保健所を通じて健康観察を続ける。

日本人の新型感染は、八日に明らかになった米国イリノイ州シカゴ在住の男児（6）が初。今回の三人が確認されたことで計四人となった。

厚労省によると、男子

高校生ら三人は、八日午後四時半ごろ、デトロイト発のノースウエスト航空25便で成田空港に到着。発熱やせきなどの症状があるという。簡易検査でA型インフルエンザの陽性反応が出たため、空港検疫所で詳細（PCR）検査を、感染研で確定検査をそれぞれ行った。

八日時点で、男性教諭の体温は三八・六度。高校生はそれぞれ三六・六度と三七・一度だった。

短期留学には、感染が確認された高校生や教諭を含め計三十六人が参加していた。同機には乗客乗員計四百十人が搭乗。うち同行の高校関係者を

含む四十九人が待機している。

この四十九人については感染の有無を確認するため、厚労省は検疫法に基づき空港周辺の宿泊施設に十日間にわたって滞在させる。それ以外の搭乗者についても、保健所を通じて健康観察を続ける。

日本人の新型感染は、八日に明らかになった米国イリノイ州シカゴ在住の男児（6）が初。今回の三人が確認されたことで計四人となった。

厚労省によると、男子

高校生ら三人は、八日午後四時半ごろ、デトロイト発のノースウエスト航空25便で成田空港に到着。発熱やせきなどの症状があるという。簡易検査でA型インフルエンザの陽性反応が出たため、空港検疫所で詳細（PCR）検査を、感染研で確定検査をそれぞれ行った。

八日時点で、男性教諭の体温は三八・六度。高校生はそれぞれ三六・六度と三七・一度だった。

短期留学には、感染が確認された高校生や教諭を含め計三十六人が参加していた。同機には乗客乗員計四百十人が搭乗。うち同行の高校関係者を

含む四十九人が待機している。

この四十九人については感染の有無を確認するため、厚労省は検疫法に基づき空港周辺の宿泊施設に十日間にわたって滞在させる。それ以外の搭乗者についても、保健所を通じて健康観察を続ける。

日本人の新型感染は、八日に明らかになった米国イリノイ州シカゴ在住の男児（6）が初。今回の三人が確認されたことで計四人となった。



新型インフルエンザ感染が確認された3人が搬送された成田赤十字病院。9日午前8時10分、千葉県成田市